大阪市中央急病診療所における異物患者の現況

*長谷川 哲, 渡部 泰夫
石田 稔, *玉置 弘光
****松永 亨, *****蛭沼 進
植松 治雄, 楠岡 一雄

Foreign Bodies in Nose, Throat and Esophagus Handled in an Emergency Clinic during Last 6 Years

Satoshi Hasegawa, M.D. and Yasuo Watanabe, M.D.

Department of Otorhinolaryngology, Osaka Prefectural Hospital, Osaka

Minoru Ishida, M.D.

Department of Otorhinolaryngology, Suita Municipal Hospital, Osaka

Hiromitsu Tamaki, M.D.

Department of Otorhinolaryngology, Kagawa Medical College, Kagawa

Toru Matsunaga, M.D.

Department of Otorhinolaryngology, Osaka University School of Medicine, Osaka

Susumu Hirunuma, M.D., Haruo Uematsu, M.D.

and Kazuo Kusuoka, M.D.

Osaka Medical Association, Osaka

A statistical study was conducted on the cases of foreign bodies handled in an emergency ENT clinic during the period from 1978 through 1983.

The results were as follows;

1. During the 6 year period, 473 patients (2.1%) out of a total of 22408 patients presented with foreign bodies.
2. The locations of the foreign bodies were; 219 cases in the nose, 206 in the pharynx, 28 in the larynx, 1 in the trachea and 19 in the esophagus.
3. More than 50% of the 473 cases were infants. Of the cases having foreign bodies in the nose, 90% were infants.
4. One hundred and nineteen (54.4%) of the 219 foreign bodies found in the nose were spheroidal. Two hundred and sixteen (92.3%) of the 234 foreign bodies found in the larynx and pharynx were fish bones. Thirteen (68.4%) of the 19 foreign bodies found in the esophagus were coins, and in 9 of the 13 cases coins were lodged at the entrance of the esophagus. The foreign bodies found in the trachea of one case were beans.
5. Two hundred and seventy seven (58.6%) of the 473 cases were treated within 6 hours.

Key words: 異物症, 頻度, 部位, 年齢

*大阪府立病院耳鼻咽喉科

***香川医科大学耳鼻咽喉科

*****大阪医会

**市立吹田市民病院耳鼻咽喉科

*****大阪大学医学部耳鼻咽喉科

I 緒 言

われわれは、昭和53年12月より、昭和58年6月までに、大阪市中央急病診療所を受診した異物症例の、統計的観察を試みたので報告する。

II 異物症の統計

表1は年度別の部位別異物症例数である。53年度は、53年12月より54年3月までの4カ月間、58年度は、58年4月より6月までの3カ月間の統計をとっているため、受診総症例数、異物症例数ともに少なくなっている。この期間に、鼻・咽喉頭、食道・胃腸、気管の異物症、またはその疑いで受診したものは797症例で、そのうち、異物を確認できたものは473症例であった。以下、この473症例について報告する。

年度により、表1に示すように多少の変動はあるが、全症例に対する異物症の割合は、平均2.1%となっている。また、表1には示していないが、この期間に耳内異物確認症例が各年度ごとに、12例、48例、46例、50例、44例、20例の計220例あり、それらを含めると異物症例は693例となり、総症例数に対する割合は、3.1%となる。

また、部位別にみると、耳内異物が220例、鼻腔内異物が219例、咽喉頭異物が206例で、各各約30%を占め、喉頭異物が28例で4%、食道・胃腸異物は19例で3%、ほかに気管異物が1例であった。

この割合を他の報告例と比較してみる。昭和31年より昭和40年までの大阪大学耳鼻咽喉科における報告¹⁾では、食道胃腸異物66%、咽喉頭異物17%、気管喉頭異物6%、耳内異物8%、鼻腔内異物4%となっており、かなりの違いが認められる。また、西浦による昭和44年より55年までの報告²⁾では、耳内異物45%、鼻腔内異物14%、口腔咽喉頭異物35%、食道異物4%、喉頭気管異物4%と、われわれとかなり似た数値が報告されており、異物症の統計に関して、総合病院と開業医あるいは診療所とにおける、症例の種類に違いのあることが確認できた。

表2は、異物症例全体の年齢との関係を示

表1 年度、部位別異物症例数

	受診 総症例数	異物 症例数	鼻	咽喉頭	喉頭	気管	食道	%
S53年度	1,692	53	19	22	3	0	9	
確認例		35	19	15	1	0	0	2.1
S54年度	4,194	175	50	70	15	5	35	
確認例		94	45	39	5	1	4	2.2
S55年度	4,978	180	59	76	15	3	27	
確認例		106	53	45	5	0	3	2.1
S56年度	5,212	160	45	72	13	5	25	
確認例		93	37	45	8	0	3	1.8
S57年度	5,306	185	56	82	19	1	27	
確認例		121	54	54	7	0	6	2.3
S58年度	1,026	44	12	16	3	0	13	
確認例		24	11	8	2	0	3	2.3
計(確認例)	22,408	473	219	206	28	1	19	2.1

表2 年齢・性別の異物症例数

年 齢	男性	女性	計	%
0～5	141	109	250	53.1
6～10	28	12	40	8.4
11～20	9	10	19	4.0
21～30	20	15	35	7.4
31～40	21	17	38	8.1
41～50	16	12	28	5.9
51～60	7	19	26	5.5
61～	14	22	36	7.6
計	256	216	472	100

(年齢不明1症)

表3 鼻腔内異物症例年齢分布

年 齢	男	女	計	%
0～5	117	88	205	93.6
6～10	10	3	13	5.9
11～60	0	0	0	0
61～	1	0	1	0.5
計	128	91	219	100

す。0～5歳までが250例で53.1%と約半数を占める。11～20歳が最も少ない。性別では、50歳以下はやや男性が多いようであるが、50歳以上では、逆に女性に多くなっている。部位別にみると、鼻腔内異物(表3)では、5歳以下が圧倒的に多く93.6%を占め、11歳以上の症例は、わずか1例だけであった。咽喉頭異物(表4)

表 4 咽喉頭異物症例の年齢分布

年 齢	咽 頭				喉 頭			
	男	女	計	%	男	女	計	%
0～5	18	13	31	15.0	0	0	0	0
6～10	16	8	24	11.7	0	0	0	0
11～20	7	10	17	8.3	2	0	2	7.4
21～30	19	14	33	16.0	1	1	2	7.4
31～40	19	15	34	16.5	2	2	4	14.8
41～50	14	12	26	12.6	2	0	2	7.4
51～60	6	16	22	10.7	1	2	3	11.1
61～	9	10	19	9.2	4	10	14	51.9
計	108	98	206	100	12	15	27	100

表 6 年度別鼻腔内異物別頻度

	球 形 物	プ ラ ス チ ッ ク 片	豆 類	玩 具	種 子	ポ ン	ク レ シ ョ ン ム	ケ シ ゴ	他	計
S53						1				1
S54	14	6	3	3	3	1	4	2	3	15
S55	11	9	2	4	7		1	2		14
S56	11	5	3	3	3	1	2		3	11
S57	11	9	4	1		6	2	1	2	1
S58	8	4	6	2		2				5
計	55	33	18	13	13	10	9	6	5	52
%	25.2	15.1	8.2	5.9	5.9	4.6	4.1	2.7	2.3	2.3
										23.7
										100

では、年齢による著明な差は認められていない。喉頭異物においては、0～10歳の症例がなく、逆に61歳以上の高齢者が約半数を占めていた。食道・胃腸異物（表5）では、10歳以下と51歳以上の2つのグループにわかれ、1例の気管異物症例は5歳の女子であった。

次に異物の種類についてみると、鼻腔内異物（表6）に関しては、急病診療所の性格上、簡単に「球」と記載されたものが最も多く全体の1/4を占め、ついで、プラスチック片、豆類、玩具となっているが、いずれも球形であるものが多かった。咽頭異物（表7）に関しては、魚骨が最も多く、約90％に達している。ほかに針金、10円玉、竹串、義歯などであった。喉頭異

表 5 食道・胃腸異物症例年齢分布

年 齢	男	女	計	計
0～5	6	7	13	73.6
6～10	2	1	3	15.8
11～50	0	0	0	0
51～60	0	1	1	5.3
61～	0	1	1	5.3
計	8	11	19	100

表 7 年度別咽喉頭異物別頻度

	咽 頭									喉 頭					
	魚 針 10 竹 義 野 薬 不 円 菜 計									魚 薬 カン 釘 の フ 骨 包 タ				計	
S53	2								2						
S54	35								1	36	3				3
S55	50								1	51	5				5
S56	33	1	1		1	2	1	2	41	7	1	1	9		
S57	53	1	1	1	1				57	8	8				
S58	18			1					19	2	3				
計	191	2	2	2	2	2	1	4	206	25	1	1	28		
%	92.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	1.0	100	89.2	3.6	3.6	100		

表 8 年度別食道・胃腸異物別頻度

	1 円 玉	5 円 玉	10 円 玉	50 円 玉	100 円 玉	薬 包	コ イ ン	パ チ ン コ ン	ビ ン コ ン	魚 骨	計
S53											
S54					1		1				2
S55		2	1							1	4
S56					2	1					3
S57	1		1	1		1		1	1		6
S58				1	1		1	1			4
計	1	2	2	2	4	2	2	2	1	1	19
%	5.3	10.5	10.5	10.5	21.1	10.5	10.5	10.5	5.3	5.3	100

物（表7）に関してもほぼ同様の傾向で、やはり魚骨が90％近くを占めていた。しかし、食道・胃腸異物（表8）になると、やや異なった傾向がみられた。すなわち、貨幣またはコインといったものが19例中13例で最も多く、ほかに

薬包, パチンコ玉, ピンなどがあり, 魚骨は, わずか1例であった。

表9は, 食道・胃腸異物の存在部位を示す。確認できたものは, 19例中15例で, やはり食道第一狭窄部が最も多く9例であった。胃内に達しているものが3例, 小腸にまで達しているものも, 50円玉, パチンコ玉の2例認められた。

最後に受診までの時間を表10に示す。鼻腔内異物と食道・胃腸異物, 咽頭異物と喉頭異物が同じような傾向を示している。すなわち, 前者は10歳以下の患者が圧倒的に多いため, その活動時間と診療所の午前10時より午後5時までの診療時間が関係し, 後者では, 食事の時間と診療時間が関係した結果と思われる。

Ⅲ 結 語

大阪市中央急病診療所における異物症の統計的観察をおこない, 以下のような結果をえた。

1) 耳内以外の異物症例は, 全症例の約2%を占める。

2) 鼻腔内異物, 咽頭異物がほぼ同数で, 両者で約90%を占める。

3) 鼻腔内異物に関しては, 5歳以下が圧倒的に多く, 喉頭異物では逆に高齢者が多い。

4) 具体的には, 鼻腔内異物では球形物が, 咽頭異物では魚骨が多い。

5) 受診までの時間をみると, 大部分の患者は6時間内に受診している。

文 献

- 1) 松永喬・他：我教室10年間の異物症統計, 日耳鼻, 70:1373-1378, 1967.

表 9 食道・胃腸異物の種類と存在部位

	1 円 玉	5 円 玉	10 円 玉	50 円 玉	100 円 玉	薬 包	コ イン 玉	パ チ ン コ 玉	ビ ン	魚 骨	計
食道第一狭窄部		2		1	3	1	1		1		9
食道第二狭窄部			1								1
胃	1			1				1			3
小腸				1				1			2
不明		1				1	1			1	4

表 10 外来受診までの時間

時間	0～6	6～12	12～24	24～48	48～
鼻 (%)	162 (74.0)	4 (1.8)	36 (16.4)	3 (1.4)	14 (6.4)
咽 頭 (%)	99 (45.1)	13 (6.3)	82 (39.8)	5 (2.4)	7 (3.4)
喉 頭 (%)	11 (39.3)	0	12 (42.8)	0	5 (17.9)
気 管 (%)	0	0	0	0	1 (100)
食 道 (%)	5 (78.9)	0	3 (15.8)	0	1 (5.3)

- 2) 西浦勇夫：開業11年間異物症例の統計, 耳喉, 54:471-477, 1982.

別刷請求：〒558 大阪市住吉区万代東3-1-56
大阪府立病院耳鼻咽喉科
長谷川 哲

(投稿受付 1984年6月11日)